



冷水 佐 壽

(ひや みず さ とし)

奈良工業高等専門学校 学校長

奈良高専本科を卒業する学生諸君、専攻科を修了する専攻科生諸君、おめでとうございます。奈良高専で実践的な技術者として生まれ、これから新しい社会に出てゆく諸君への期待は非常に大きいと思います。私も今後の皆さんの活躍を楽しみにしています。

今、時代は大きく変わりつつあります。経済停滞のつづく日本と大発展しつつある周囲のアジア諸国。そのような中で生き残りをかけて日本企業の改革が進みます。キーワードは国際化です。国際化の第一歩は英語力の向上です。本校でも、今年度から「英語教育充実促進会議」を立ち上げ学校全体で英語力を向上しようと具体的な活動をスタートしました。しかし、一番大事なことは学生諸君の一人一人が英語の必要性を理解し自主的に勉強することです。これからは英語の勉強を続け、英語力のさらなる向上に努めてください。そして、海外への高い関心を持ってください。国際化が進むこの世の中でどう仕事をするべきかを考える時、海外のことも含む広い視野が不可欠です。



訪問した成都電子機械高等専科学校の正門〔正面の建物は図書館。広大なキャンパスは60万平米(国立高専の約6倍)〕

国境をやすやすと越えて人やモノや情報が飛び交う時代に技術者・研究者として活躍するためには、専門分野の最新の知識と技術のほかに、卓抜したコミュニケーション能力や信頼関係に基づく国内外の広い人脈の構築が必要です。国際化する日本社会の中で、競争はますます厳しいものとなってゆくことでしょう。語学は日本語と英語、そして中国語とも一つくらい外国語を操れるような技術者となることを目標とするような時代がもうすぐ来るかもしれません。

2月末から3月にかけて、私は中国の四川省の省都、成都を訪問しました。成都にある高専(成都電子機械高等専科学校と成都航空職業学院)と近畿地区の国立高専との交流について話し合うための訪問です。成都は北京から南西に、飛行機で3時間飛んだところにあります。昔、三国志にてでくる「蜀」の国の都であったところです。現在の人口は800万人とも1000万人ともいわれる大都会で、経済発展の真っ盛りです。町の中心部は再開発で近代化が進み、空港と町の中心部を結ぶ高速鉄道が建設中です。見渡すかぎり平坦な土地が広がる郊外にはあちらこちらに大きな工業団地が作られています。どこまでもまっすぐに伸びる片側



どれを食べても非常に美味しい四川料理

5車線の広い道路の両側に、日本の工場とくらべて5倍から10倍ほど広い工場がずらっと並んでいます。みんなピカピカの新しい工場です。そして、いたるところに30階建てくらいの高層マンション群が建てられています。日本で想像していたことをはるかに超えて、中国という国の経済発展の勢いに圧倒される思いでした。現地に行くことの重要性も改めて感じさせられました。

近い将来、成都の高専との交流や成都にある日本企業との合弁会社の工場などで日本の高専生のインターンシップが行われるようになると、高専生にとって現代中国を現地で直接理解する良い機会になることでしょう。これからは、卒業生諸君の中にも何らかの中国に関連する仕事をする人も多くなると思います。機会があれば、是非、一度中国に行くことを勧めます。これからしばらくは、中国抜きでは仕事は進まなくなると思わせるような今回の中国・成都の出張でした。